



333 East 47th Street
New York, NY 10017
japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

プレス担当：

マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

**ジャパン・ソサエティ(JS)
トーク+(プラス)**

**オンラインセミナー
リビング・トラディションシリーズ**

『日本庭園：大自然、建築と文化が共存する学びの空間』

**9月28日(火) 午後7時00分～8時15分*米国東部時間
午後4時～5時15分*米国太平洋時間**

JSは9月28日(火)、オンラインセミナー『日本庭園：大自然、建築と文化が共存する学びの空間』を開催します。

日本庭園は、長い伝統の中で洗練された美しさと静寂を兼ね備えた空間だけではなく、常に新しい発見とイノベーションをもたらし、他の文化形態と交わることで進化し続ける総合芸術とも言えます。本オンラインセミナーでは、世界最古のランドアートの一つである日本庭園の歴史を辿り、世界中で進化し続ける重要性に着目します。様々な分野でご活躍されている専門家をお迎えし、日本庭園が人と自然との関わりを形作る傍ら、その造園デザインに秘められた原理と美学が、現代芸術・建築にどのような影響を与えてきたかを掘り下げます。

アジェンダ： ディスカッション、Q&A 午後7時00分～8時15分(米国東部時間) / 午後4時～5時15分(米国太平洋時間)

参加費： 無料 (参加には事前登録が必要です)

登録方法： [こちら](#)よりご登録ください。

*本オンラインセミナーはYouTubeにて配信します。事前登録いただいた皆様に、イベント当日に視聴リンクをお送りします。

*オンラインセミナー中は、YouTubeを通してスピーカー・モデレーターにご質問いただけます。

*本オンラインセミナーは、英語で行います。

スピーカー

【ケンドール・ブラウン】

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 美術学部 アジア美術史 教授。日本美術史の様々な分野で活発に執筆活動を行っているほか、キュレーターとしても、木版画からアール・デコまで多様な分野の展示を国内各所の美術館で企画。北米における日本庭園学の代表的な研究者として、日本庭園の社会史に着目した本や学術論文を出版。北米日本庭園協会(North American Japanese Garden Association)の共同創設者であり、元会長。

【ダイナ・バントロック】

カリフォルニア大学バークレー校 建築学部 教授。2017-2020年まで日本学センターのセンター長を務め、初代トモエ・タカハシ基金教授でもある。2018年に、(北米) Association of Collegiate Schools of Architecture の特別栄誉教授に選出される。研究著書は『Japanese Architecture as a Collaborative Process: Opportunities in a Flexible Construction Culture (London: Spon, 2000)』をはじめとし、主に日本の建築物とその構造に着目。『Materials and Meaning in Contemporary Japanese Architecture: Tradition and Today (London: Routledge, 2010)』では日本の伝統を引き継いだ現代の建築家に焦点を当てる。米国立科学財団、日本学術振興会、国際学者交換協議会、(米国)社会科学研究会議のサポートを得て、東アジア諸国とアメリカ合衆国でフィールドワークを行う。今までの研究成果は、日本語、韓国語、中国語およびスペイン語に訳されている。

【デーキン・ハート】

イサム・ノグチ財団・庭園美術館 (NY州ロングアイランドシティ)シニアキュレーター。イサム・ノグチ財団・庭園美術館のシニアキュレーターとして、美術館の展示、コレクション、作品目録、アーカイブと一般向けプログラムを監修している。元ナッシャー彫刻美術館 (テキサス州ダラス)のアシスタントディレクター、モンタルヴォ・アートセンター(カリフォルニア州サラトガ)の芸術監督とアーティスト・イン・レジデンスプログラムのディレクター、サンフランシスコ・ファインアートミュージアムのディレクターアシスタントを歴任。インディペンデントキュレーター、また作家としても活躍。

モデレーター

【中西 玲人】

ポートランド日本庭園財団 上席執行役員 (文化・芸術・教育プログラム担当)。1974年大阪生。14歳で単身渡英し一貫してヨーロッパで過ごす。08年に駐日アメリカ大使館文化担当官首席補佐に着任し、ルース大使やケネディ大使といった歴代大使の文化アドバイザーを務め、大使館における文化戦略の立案運営を担当。職外では展覧会、アートフェア、文芸フェス等のプロデュースを行うなど、多岐にわたる活動を展開。また、地方再生と若者世代のエンパワメントを目的としたNPOを主宰する傍ら、灘高等学校(兵庫県)にてプログラムアドバイザーも務める。18年、現職着任のため合衆国大使館を退職し、家族とともに西海岸ポートランド市に移住。現在、アメリカでの職務のほか、(公財)小笠原敏晶記念財団(東京)及び(公財)清春白樺美術館財団(山梨)にて理事を務める。

本イベントは、全5回「リビング・トラディションシリーズ」の第1弾として開催されます。

リビング・トラディションシリーズ

世界を惹きつけてやまない日本文化の精髓は、何世紀にもわたる伝統に根ざしていると言えます。「リビング・トラディションシリーズ」では、5つの異なるテーマについて多様なスピーカーを迎え、今日人々に親しまれている日本文化の諸相を歴史的に紐解きつつ、確固たる伝統が現代社会でどのように継承されているかを議論します。

取材お申し込み：取材のお申し込みは、プレス担当：マリカ（日本語）／ロッドマン（英語）までEメールで(Emarica@japansociety.org/ ARodman@japansociety.org)ご連絡下さい。

本オンラインセミナーは、ポートランド日本庭園財団の共催及び日本政府の支援により開催しております。

ジャパン・ソサエティー トーク+ (プラス) プログラムは、MUFG (Mitsubishi UFJ Financial Group)及びORIX Corporation USAのスポンサーにて開催しております。また、匿名ドナー、the Sandy Heck Lecture Fund及び、Helen and Kenneth A. Cowin氏にも多大なご支援・ご協力をいただいております。

JSについて：

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々をつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS

本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org をご覧ください。

JSは今年、ニューヨークのランドマークである本館設立50周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JSが文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式SNSアカウント：

Facebook：facebook.com/japansociety

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)

その他、詳しい情報は弊会ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

ポートランド日本庭園財団について：

ポートランド日本庭園財団は、第二次世界大戦後の日米両国間の文化理解の場として1963年に創立されたアメリカ合衆国の公益財団法人です。世界恒久平和の希求と二国間の人的交流、そして異文化理解の探求を礎に民間で発足した本財団は、時を経てポートランドを代表する庭園文化団体となり、日本国外にある中でも最も本格的な日本庭園と認められるまでに成長しました。年間来場者数50万人を超えるポートランド日本庭園は、憩いや癒しの場としての従来の庭園像だけでなく、広くアートや文化というレンズから見た各種プログラムを提供すると共に国境を超え、人類の多様性理解を深める多様なプロジェクトを推進しています。

庭園の最新情報は、[フェイスブック](#)、[インスタグラム](#)、[ツイッター](#)、[YouTube](#) をご覧ください。

###